

## 第4回（3月） 会議録（主な意見）

○PTAは社会教育関係団体であり、大人の学びの場であるべきだが、多くの保護者は学校を支援するボランティア団体というだけの認識である。正しい認識を周知、啓発することで、活動への参加意識を高めたい。

○PTAの課題は、全ての保護者を巻き込む仕組み作りであり、例えばスマホやゲームの問題では、現状を考えれば「ノースマホ」「ノーゲーム」の取組では、保護者の関心が薄れてしまうので、「持っている、持つ」ことを前提としたリテラシー教育等を行わないといけない。

○行政と連携して地域課題に取り組んでいるが、地域の中で、同じ目的で活動している大小様々な団体を把握し、コーディネートすることが大切なので、地域の情報をこまめに調べ、連携を強化している。

○今まで当たり前であったことが当たり前でなくなっている中、母親の声を聴き、ニーズを把握することで、個に応じた支援を心がけている。社会的に困難な状況におかれていたり、社会的に孤立したりしがちな住民等の学びを通じた地域社会への参画を支援するためには、より丁寧な対応が求められる。

○実施事業についてはマンネリ化してしまい、本来必要な活動なのか検証作業がない状態である。こうした中、「未来像検討委員会」を立ち上げたのは、非常に大きな改革だったと思う。2年の協議を経て出た答申をもとに、現在我々は改革を進めている。他団体にも言えると思うが、今回はPTA経験者だったが、外部というか、客観的に見られるところから改革を促していくということも大事だと思う。

○PTA活動が親育ちの場になるように、雰囲気醸成していきたいと思う。そのために、学校から保護者の方へしっかり呼びかけていこうと思っている。

○行政とか既存の組織を超えて、それぞれ必要なところにボランティアや賛同する人が集まるから自由になんでもできるんだと感じた。たぶん、福祉の世界だけ、教育の世界だけで行おうとするといういろいろなところで、既存の団体との関係等で問題も出てくる。逆に言えば本当に自由に関係者だけで行っていける。そうなると、持続性・継続性という点では課題は多いということですね。自由が膨らんでいけばいくほど、マンパワーが必要になっていくということだと思う。

○小学校からずっと不登校だったという方や、人とコミュニケーションがとれない方が母親になっているという問題があり、教育のやり直しができればと感じる。フリースクール等はあるが、地域と連携して、人を育てる為の基本的な教育をどこでどういう風に身につけさせるかという問題がある。

○資料の最後を見て思ったのは、こんなにたくさん団体がいるのかということ。逆に言えば、細分化されすぎている気もしなくもない。それぞれの団体にマンパワーが必要になるので、連携をとるのも大変になると思う。これだけの団体に関わり、いろんな形で仕事や役割が増えていく中では、一度交通整理が必要なのかなと、行政的には思うところである。